

平成26年度 学校評価表（自己評価・学校関係者評価）

白樺学園高等学校（全日制普通科）

学校教育目標	全ての生徒に親切的な教育、楽しく魅力のある学校生活を実現する。
重点目標 (中・長期的目標)	1. 授業重視の学校体制を目指し、個性の発展をめざす。 2. 進路希望実現の学習指導をすすめる。 3. 行事の充実をはかる。

平成26年度 学校経営方針	
1.	地域の期待に応えるべく、学校評価の取組と公開に基づく信頼性・透明性のある学校づくりを推進する。
2.	教員の意識改革、サービスの遵守について再確認すると共に、教員の研修・講習の機会を設け、実践的指導力の向上を図る。
3.	本校の中長期的重点目標1～3の効果的な実践を推進する。

達成度	
達成	4
概ね達成	3
やや不十分	2
不十分	1

分野		領域	評価項目	具体的方策	H25	H26	次年度への課題
学校運営	校務運営	1	学校運営方針の共通理解と協力的態勢の形成・実践。	校務運営委員会・各分掌・教科・学年会議は、目的を明確にして実施する。	3.1	2.8	●人手不足(あらゆる面)。余裕があったらもっと質の高い教育ができる。一旦教員の配置が崩れると、その立て直しがきかない状態である。●校長及び校長代理不在の期間を作らない。
	教員体制	2	教員の意識改革・サービスの遵守・適切な教員配置・実践的指導力の向上。	教員の服務規程遵守・職務意識の高揚を研修会や講習会等で図る。	2.7	2.5	●教員増を求めたい。●仕事量のバランスをよくしたら良いと思う。●適切な教員配置がされていない。(部活動)
	学校改革	3	学校評価におけるPDCAマネジメントサイクルの機能化と情報公開。	自己評価・関係者評価を実施し課題を確認し、評価結果を公開し、次年度へつなぐ。	2.7	2.9	●この自己評価が重要。●よく年々伸びてきているので継続。●10年後、20年後の学校がどうあるべきかという展望が不明確である。
学習指導	授業方法	4	授業方法の工夫・改善による理解できる授業の展開。	学年教科会議や成績会議による相互評価、研修・研究を推進する。	2.7	2.6	●授業内容・仕方などの研修を設け、授業の質を上げる必要性を感じる。●情報共有は大切だが、実態を保護者にも伝えるべき。●教科の研修会の機会を増やすべき。
	基礎学力	5	基礎学力の定着を重視し、到達度の低い生徒に対する親切的な取り組みを行う。	クラス分析・生徒個々の掌握・放課後補習を実施する。	2.9	2.5	●講習について、上を目指す者を応援するのも大切だが、底上げのフォローも必要だと思う。●基礎学力の低い生徒に対してどう対応するのか、明確な対応が必要。●数年後の到達度テストへ向けて本格的に学び直しの機会を設けるべき。
進路指導	調査・面談	6	進路希望調査の実施、個人面談・三者面談による生徒理解と分析。	担任・進路担当により、希望調査を踏まえた面談で進路対策指導を行う。	3.2	2.9	●進路部と連携して、面談を学校全体で動いても良いのではないか。●準備や開始時期のズレはあれど、どのクラスもやっている。●特定の教員に業務が集中しすぎる傾向にある。特に17時以降。
	進路分析	7	就職先・進学先についての情報の蓄積と共有。	企業訪問・大学訪問・受験報告等の情報分析を行い学年単位で情報を共有する。	2.9	2.9	●定期考査だけでは不十分なので、業者テスト(模擬試験)の実施が必要。●進路部が中心となっているが、学年までの連携により一層の充実を。●1, 2年での早期の取り組みが必要である。
	職業観育成	8	生徒の職業観・進路意識の育成。	各種セミナー、講習、インターンシップ等の取組の量的・質的向上を図る。	2.9	3.0	●インターンシップの量的・質的向上は、担任・顧問の先生の協力が無いと難しい。●インターンシップで企業に迷惑をかけているという噂を耳にする。●インターンの事前指導に重点を置くべき。「生徒の常識＝社会の非常識」が目立つ。
	推進力の強化	9	3年間を見据えた進路計画の設定と実施。推進力を発揮し各学年をリード。	学年団との連携を密にし、必要な情報提供を行い、学年をリードする。	2.6	2.8	●LHRを計画的に、「足並みそろえて何をするのか」という動きが欠けている気がする。●学年により取り組みにばらつきがあり。●学年団との密な連携が次年度への課題である。
行事の充実	生徒会行事	10	自発的、自治的な組織活動の指導。	執行部とHRの連携、HR活動の活性化・仲間作りに発展する行事の取組を行う。	2.3	2.7	●HRと生徒会の間でやり取りできることを知らない生徒がいる。●生徒会顧問の執行部生徒へのささり方がばらばら。●学級によりばらつきあり。●生徒が考えて行う。文章も生徒に作成させたい。
	学校行事	11	愛校心・道徳心・社会性・公共性・安全性等を育む行事づくり。	目的・狙いに対して適切な手立てや工夫をこらした行事を追求する。	2.3	2.9	●全校集会をもっと大切にする改革が必要か。●各担任とも白樺祭は頑張っていた。しかし、クラス展はイマイチ。●愛校心は他校と比べるとある。クラスTシャツに学校の紋章を入れているような生徒はいないはず。

学校関係者評価		
H25	H26	意見・要望
3.2	2.9	教頭お二人の頑張りには敬意を表しますが、第三者的に見ても校長不在が長引くのは良くないです。2人の教頭の位置づけも明確に。
3.1	2.6	人が足りないと言うのはどの組織でも言われますが、現員体制の中で学校全体としてコミュニケーションが取れているか疑問。
2.7	3	改革のポイントが教員、保護者に明確にみえるよう努力すべき。
3.0	2.8	
2.9	3	学力レベルの違う生徒を同一の目線で教えることは大変と感じる。
3.2	2.8	就職に関する取組は高評価。進学はスポーツ以外での生徒への配慮が課題か？
3.1	3	情報分析的確と思う。個々にあった指導をしていると思うが、部活者は顧問だけでなく、共有して欲しい。
3.2	3	社会性を培うために多くの生徒の参加を望む。
2.9	2.9	特に不満無し。
2.6	2.6	自主性を重視すべき。フォローが大変だとは思いますが。
2.9	2.9	同上

分野	領域	自己評価				学校関係者評価				
		評価項目		具体的方策		H25	H26	意見・要望		
いじめ防止対策	方針の立案	12	学校としていじめに対応する方針の作成	いじめ防止対策のための方針を作成し、それを職員室及び生徒・父母に周知する。	2.9	3.3	●アンケートの実施と面談でカバーしている。●アンケートを継続して実施してほしい。●運動部でのいじめ防止のための具体的方針と周知。	2.9	3.0	目に見えない部分の掘り起こしが大切。適切に対応していると思う。
	防止対策の組織化	13	校内に、いじめ防止のための対策組織を設置する。(防止対策委員会)	いじめに対する方針の作成や防止対策を担う組織(防止対策委員会)を機能的に運営する。	2.8	3.2	●事件が起こってからの事後処理対応的な部分がどうしても強くなってしまう。●専門的な知識を持つ教員が必要。●防止になること、促進になることの分析・情報を提供。	2.8	2.9	同上
	防止対策	14	いじめ防止対策委員会を中心に、防止のための調査や対策を検討する。	具体的な防止対策の動きや定期的ないじめの調査を実施する。	3.0	3.4	●定期的によくやっていると思う。●定期的に配布物が渡されるので良かった。	2.8	2.9	同上
生徒指導	指導体制	15	全教員が方針のもとに、一貫性を持った指導体制の構築。	生活指導部通信の発行と呼びかけ(他項目も同じ)、全教員での月毎の玄関指導・駐輪場指導。	2.8	2.8	●全体で取り組むべきことができなくても、誰も何も言わない、やろうとしない。●やり方論で、いくつも意見がありそう。●指導部通信、なかなか浸透せず。●指導部を中心に頑張っているが、全教員の取り組みになっていない。	3.1	3.0	良いと思う。現代の子供は難しい面もあるが厳しい指導を続けて欲しい。
	規範意識	16	実社会で通用する人間性の教育。挨拶の励行と、場面に応じた正しい言葉遣いの指導。	全教員による日常的な生徒指導。校内・外生活での問題行動を防止するための啓蒙。	2.5	2.6	●やる先生とやらない先生の「溝」。●正しい言葉遣い、生徒が多数来訪する職員室なので、教職員も同時にする。●言葉遣いの悪さを指摘する教員は少ない印象。	3.2	3.0	同上
	生活指導	17	校則に基づいた頭髮指導、服装指導、集団への帰属意識。	毎月の全校集会での頭髮服装検査へ向けての事前指導と事後指導の実施。	3.0	3.0	●担任のやり方改革が必要。指導部任せが多い。●いくつかの学級で、熱さにばらつきあり。●最近の集会は私語も少なく整っている。●毎月、同じ生徒が対象にならないように事前指導を強化。	3.1	2.9	同上
	安全指導①	18	登下校時の自転車運転マナーと盗難防止。ネット関連・薬物等の事故未然防止のための啓蒙。	交通安全指導、自転車の2重施錠の指導。青少年問題に関する特別講演の実施。	3.0	2.9	●啓蒙・集会は沢山やったが、結果・改善は? ●二重ロックは先輩に鍵をとられるなどうまくいかないし、お金もかかる。●自転車運転ルールの配布、交差点での指導実施。	3.0	2.9	同上
	安全指導②	19	教育相談室、家庭との連携、外郭団体との連携、研修。	学校カウンセラーの生徒支援。家庭連絡・訪問の実施。高生連・生指連等との連携・研修参加。	3.1	3.0	●カウンセラーの充実。●研修資料をPDFにするなどして、他教員に公開。●カウンセラー・相談員を常駐させるべきである。	2.9	2.9	同上
環境施設	保健・美化	20	学校の美化・衛生面の充実と生徒の健康。省エネ・エコの取組と生徒指導。	厚生部・生徒会厚生委員会・PTA施設部を中心に、HR単位での美化・衛生・エコに取り組む。	2.6	2.5	●アンケートにトイレが汚いとあったが、確かに女子トイレ(主に洗面台)がひどい状態の時がある。●美化道具の準備・充実。教室美化の支援的活動の検討。●ゴミ分別がひどい。教室の床が汚い。解放時に恥ずかしいと思う。	2.8	2.9	PTAに関してはこのレベルの活動が妥当。
	施設・設備	21	学習環境の充実・施設・設備の点検・補充。	厚生部・各教科・各担任レベルでの点検を行うと共に、授業やHRで生徒の公共心を養う。	2.7	2.7	●教室の掃除レベルがすべて。●トレーニング室のマシンの点検不足である。施設の充実がなされていない。●放送をはじめ、あちこちでガタがきていると思う。	2.6	3.0	同上
地域との連携	学校開放	22	本校の校舎施設を地域に開放し、地域貢献に努める。	体育館・グラウンドの運動施設、校舎棟の特別教室など依頼に応じて開放する。	3.4	3.4	●スポーツや検定での貸し出しの継続。周知を忘れず、計画的に。●解放しているが全体的には知らされていない。●体育館の一般開放により、自校の生徒利用が制限されるのは少し残念。	3.2	3.0	
	連携・協力	23	地域の教育行政、各種文化団体、ボランティア団体等との協力・連携。	芽室町・帯広市の教育行政や、地域の要請に対して可能なものは協力的に連携を図る。	3.0	3.1	●テートDV(帯広市)と、ゲートホール(芽室町)連携している。●継続的に取り組んでいく。●某介護施設により、ユネスコの活動を強化してほしいとの連絡があった。	3.3	3.0	
	情報公開	24	本校の教育実践や成果をHPや広報誌等で積極的に発信する。	本校ホームページ・学園便り・PTA便り・体文ニュース・各分掌からの通信の内容充実。	3.6	3.6	●ホームページはすごいと思う。●ホームページの更新はできるだけタイムリーに行う。取材交通費などの充実。●進学、教養コースの良さを伝えられるような情報を公開できないのが残念。	3.5	3.3	様々な情報があり、いいと思う。
総体評価	学校教育目標	25	全ての生徒に親切的な教育、楽しく魅力ある学校生活を実現する。	教育目標を達成すべく、教職員がそれぞれの持ち場で工夫・努力する。	3.1	2.8	●人員不足のため一人ひとりを見るには難しい。●実践目標となりました。●生徒の必要な情報を全教員が共有できるよう望む。	3.2	3.0	
	学校評価	26	継続的な学校改革の推進を図る。	現状から将来へ向け、重点目標の検討、適切な評価項目の選定を行い全教員で取り組む。	2.4	2.5	●入試の改革はされているが、授業環境がもう少し改善してほしいと思います。●私学としての「危機意識」を常に持ち続けることが大切。	2.8	2.8	

平均 2.8 2.9

平均 3.0 2.9

自己評価委員会のまとめ

平成26年度は本校として学校評価を本格的に取り組んで2年目の年となった。初年度に比べ、保護者からのアンケートの回収率が57%から68%（約7割）となり、保護者及び教職員からの意見も多数提出されるようになった。学校教育に関わるそれぞれの分野、領域・項目に対するひとつひとつ意見や評価は大変貴重なものであり、教職員一人一人が改善点として重く受け止めていきたい。平成27年度の重点課題は9つ分野と26領域・評価項目の中から、「学習指導」の分野の「授業方法」と「基礎学力」について、また「学校運営」の分野からは「教員体制」の項目に絞って学校改革を進めていきたい。以下に、それらの改革の方向性を示す。

<p>【学習指導：授業方法】</p> <p>授業規律の確立を！</p>	<p>分かる授業、質の高い授業の前提として、チャイム前着席・教科書類の準備はもとより、学習者の授業に対する正しい参加姿勢を全教員が適切に指導する。教務部は年度方針で、具体的な規律の観点を打ち出し、クラス担任、教科担任は年度当初に担当クラスに対して方針を打ち出す。教務部と学年主任は、学年教科会議を中心に、各クラスの状況を把握し、問題点について当該教科担任・クラス担任と対策を練る。</p>
<p>【学習指導：基礎学力】</p> <p>授業重視の改革を！</p>	<p>試験対策プリント・平常点、試験前の講習などがあることで、生徒達の日常の授業に対する真剣な参加態度や家庭学習の習慣を結果として阻害している傾向にある。各教科会議において、これらの取組に対する改善検討を行い、新年度方針に盛り込み改革に着手する。教務部は担当者を置き、前期末までの各教科の取組を集約し、後期へ向けて教科の独自性と学校としての共通領域に関わるものを整理し一定の方針を提案する。</p>
<p>【学校運営：教員体制】</p> <p>職務の理解と遂行を！</p>	<p>教職員は各自が担う職務に対して真摯に向き合い、職務の目指すところを咀嚼し任に就く。何を何時までにどこまで行えばいいのかを考えて取り組む。担任、教科、分掌、部活指導等の業務に於いて、自己責任を見失わずかつ所属する部署との連携、情報の共有を心がけ課題や問題の解決に協調性をもって臨む。</p>

※新年度の方針会議に以上のことが反映するような会議をお願いいたします！

※前年度の「教員研修の充実」と「LHRの計画的な有効活用(生徒会行事・学校行事充実のため)も継続して取り組みます！

学校関係者評価委員会のまとめ

<p>【学校運営：校務運営】</p> <p>教員体制を整え環境改善を！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校長不在の状態が半年以上続いたことは、対外的なことばかりでなく校内の教員や生と達にとっても良くなかったのではないか。 ・正教員と期限付きの構成比率は他の学校に比べて、期限付きの先生の割合が随分多いように感じるがどうか？ ・理事会は教員の体制を整えて、学校の人的な環境改善を行うべきではないか？
<p>【学習指導】</p> <p>定期考査前の部活動の配慮を！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査前の一週間なり、何日間かは練習を控えるよう配慮しているのか？ ・学力差が大きい状況下で先生達も大変とは思いますが、高校生として学習や試験に対する真摯な姿勢を更に工夫し指導をお願いしたい。
<p>【進路指導】</p> <p>個人面談・三者面談等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の担任まかせでなく学年で統一するなど、取組期間を設定し各クラス共通の取組にすべきではないか？
<p>【生徒指導】</p> <p>問題事案は早期に芽を摘む！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎内の壁に穴が空くということや、授業中に立ったり弁当を食べる生徒がいるという事を耳にしたがそうなのか？ ・昔の白樺高校のイメージに戻らないよう、問題事案は早期に芽を摘み、安心安全な学校生活を維持して欲しい。